

龍谷 政策学論集

Ryukoku Journal of Policy Science

第6巻 第1・2合併号 2017年3月

論 説

- 1 中間システム論の継承と発展への課題
—宮本憲一「戦後日本公害史論」日本学士院賞受賞を記念して— 中村剛治郎
- 29 ローカル・ファイナンス概念と社会的投資
—成果連動型補助金制度（東近江モデル）を中心に— 深尾 昌峰
- 39 都市近郊型里山における人々のかかわり経験と価値評価
—長岡京市民アンケート調査から— 清水万由子・沼田 壮人・川勝 健志
- 51 大学間連携による地域公共人材育成
—先端的京都モデル「地域公共政策士」の現状と課題— 久保 友美

研究ノート

- 63 グローカル人材育成をめざす企業連携による
課題解決型学習プログラムの開発と実施 村田 和代・榎並ゆかり・上野 敏寛
- 77 水平展開を目指した学校防災教育における
研究者と学校教員との連携
—徳島県阿南市におけるクロスロードを題材とした防災教育授業を事例に— 石原 凌河
- 91 高等教育無償公開「オープンコースウェア」の現状と発展
—オンライン講座による地域公共人材育成の可能性— 久保 友美

LORC 活動報告

- 99 Resilient City 論か、Sustainable City 論か
—OECD国際ランドテーブル「Resilient Cities」参加報告— 矢作 弘
- 105 「京都モデル」—大学と地域のステークホルダーの
協働モデルをアジアにアピール— 村田 和代・矢作 弘・深尾 昌峰
- 111 Big Society 概念が英国のパートナーシップ文化に
もたらしたもの：社会的投資市場の発展から考える 的場 信敬

~~~~~  
 政策学会消息  
 ~~~~~

《学会・研究会報告》

石原 凌河

石原凌河「仮想評価法（CVM）による災害遺構の便益評価に関する研究」2015年9月4日、2015年度日本建築学会大会（関東）学術講演会、東海大学湘南キャンパス

「Studying Intention to Preserve Disaster Relics and Their Actual Utilization」21/August/2015, International Symposium on Urban Planning 2015, 世宗特別自治市（韓国）

奥野 恒久

「憲法学における平和主義の現在」2015年4月26日、憲法・政治学研究会、同志社大学徳照館

北川 秀樹

「中国の地方政府における環境ガバナンス」、2015年6月21日、日本環境学会企画セッション、龍谷大学

「中国の環境法政策とガバナンス」、2016年2月21日、2015年度現代中国地域研究プログラム国際シンポジウム、愛知大学

白石 克孝

日本環境学会第41回研究発表会、龍谷大学、2015年6月20日「地域エネルギー政策最前線」白石克孝（コーディネータ兼ねる）

14th International Pragmatics Conference 30/July/2015, University of Antwerp, Belgium Katsutaka Shiraishi, Kazuyo Murata 共同報告 'Empirical Study on Multi-stakeholder Discussions for Machizukuri'

日本エネルギー学会第24回大会、札幌コンベンションセンター、2015年8月3日「固定価格買取制度後の地域再生可能エネルギー事業の課題」櫻井あかね、白石克孝、堀尾正毅 共同報告

中森 孝文

Individual unlearning in organizations:

exploring the underling structure. 7-10 July 2015, Paper presented in the 14th European congress of psychology, Milan, Italy.

松浦 さと子

「日本型コミュニティラジオと基幹放送以後の変容の予兆 放送免許返納事例と全国定量調査を元に」松浦さと子2016年10月8日 日本社会学会、九州大学

「コミュニティ放送の『基幹放送』制度化に伴う諸問題 草の根の声を伝える持続可能なラジオのために」松浦さと子・北郷裕美・吉田恵子2016年9月11日、社会情報学会、札幌学院大学「正負の遺産を語り伝える記憶の贈与 伏見区深草コミュニティアーカイブ活動（8ミリフィルム収集と公開）における異世代交流より」松浦さと子・長岡野亜・松本篤2015年5月24日、関西社会学会、立命館大学

的場 信敬

「地域協働型再生可能エネルギーを活かすガバナリングと自治体のあり方」、自主企画セッション「地域協働型再生可能エネルギー導入推進のためのガバナンスの構築」、2016年6月19日「日本環境学会第42回研究発表会」（東京都市大学横浜キャンパス）

村田 和代

"Mysterious" laughter in Japanese business meetings, 2015/02/06, *The Second EALL Japanese Linguistic Workshop at UH Manoa* 2015, the University of Hawaii at Manoa, USA. Relational Practice in meeting discourse in New Zealand and Japan: a cross-cultural perspective on humour and laughter, 2015/03/24, *School of Language and Linguistics Research Seminar Series*, Griffith University, Australia. Humour and laughter in Japanese business meetings, in the panel entitled to 'Community of practice in Japanese business discourse: Strategic uses of linguistic resources',

2015/07/29, *the 14th International Pragmatics Conference*, University of Antwerp, Belgium.

Empirical Study on Multi-stakeholder Discussions for *Machizukuri* (with Katsutaka Shiraishi), in the panel entitled to 'Analyzing the process of group discussion: Towards "discussion design" in social decisionmaking', 2015/07/30, *the 14th International Pragmatics Conference*, University of Antwerp, Belgium.

ワークショップ「まちづくりの話し合い学—言語学・社会学からのアプローチ」、2015年9月6日、社会言語第36回研究大会、京都教育大学。

Relational Practice in Meeting Discourse in English and Japanese, 2015/09/10, *Research Seminar organized by Asia Center, Department of Linguistics, and Department of Language and Literature*, the University of Utah, USA.

「対人関係上の力の不均衡の調和：ユーモアの表出から考える」シンポジウム『相互行為にみられる調和』（企画・司会・報告）、2015年11月21日、日本英語学会第33回大会、関西外国語大学。

ワークショップ『リスナーシップとアイデンティティ—異文化とジェンダーの視点—』（司会）、2015年12月5日、日本語用論学会第18回年次大会、名古屋大学。

When do people laugh? An empirical study about laughter in Japanese business meetings, 2016/01/07, *Association for Business Communication (ABC) Europe, Africa, and Middle East Conference*, University of Capetown, South Africa.

《著書・共著・論文・翻訳》

石田 徹

(著書) 共編著『ローカルガバナンスとデモクラシー——地方自治の新たなかたち』法律文化社、2016年1月

共編著『「再国民化」に揺れるヨーロッパ——新たなナショナリズムの隆盛と移民排斥のゆくえ』法律文化社、2016年3月

(論文) 単著「福祉をめぐる『再国民化』——欧州における新たな動向」『龍谷大学社会科学研究年報』第45号、2015年5月

石原 凌河

(著書) 「地域知としての災害伝承の意義」リスクデザイン研究センター、NPO 法人リスクデザイン研究所編『復興と居住地移動』K.G. りぶれっと No. 39, pp. 53-58, 関西学院大学出版会、2016年(共著)

(論文) 「ことばをめぐる実践と考察」日本災害復興学会学会誌『復興』No. 15, pp. 23-31, 2016年3月11日(共同執筆: 震災20年研究会(渥美公秀, 石原凌河, 近藤誠司, 杉山高志, 住田功一, 高野尚子, 高森順子, 宮本匠, 矢守克也))

「災害遺構の保存に対する住民評価に関する研究」都市計画論文集, Vol. 50, No. 3, pp. 859-865, 2015年10月20日(単著)

(書評) 木部暢子著『災害に学ぶ 文化資源の保全と再生』, 記録と資料第26号, pp. 76-77, 2016年3月31日

奥野 恒久

(論文) 「代表制論の再検討——熟議民主主義との関係で」本秀紀編『グローバル化時代における民主主義の変容と憲法学』(日本評論社、2016年2月28日)

「安保関連法の違憲性と問題性」龍谷大学政策学論集第5巻第2号(2016年3月)

北川 秀樹

(著書) 『中国乾燥地の開発と環境——自然、生業と環境保全』(編著書)、成文堂、2015年2月

『流域ガバナンスと中国の環境政策』(共編著)、白桃書房、2015年6月

(論文) 「中国の都市生活廃棄物に関する法政策——日本の政策からの示唆——」, 龍谷大学政策学論集5巻2号、2016年3月31日

(書評) 知足章宏『中国環境汚染の政治経済学』『財政と公共政策』第37巻第2号(通巻大58号) 2015年10月 58-60頁

白石 克孝

(論文) 「多層的なプログラムによる都市のイノベーションの考察に向けて——EU の結束政策のインパクト」龍谷大学社会科学研究所編『社会科学研究年報』第45号 pp. 195-201, 2015

「巻頭言 ソーシャルインパクトを目指す投資スキームと公共政策」日本公共政策学会編『公共政策研究』第15号 pp. 2-4, 2015

中森 孝文

(著書) 改訂第2版「無形の強み」の活かし方 中小企業と地域産業の知的資産マネジメント、経済産業調査会、2015年

松浦 さと子

(著書) 貴志俊彦・川島真・孫安石編『増補改訂 戦争・ラジオ・記憶』共著(担当: 分担執筆, 「自著を語る」『コミュニティメディアの未来 新しい声を伝える経路』) pp. 487-488, 勉誠出版、2015年7月

(論文) 松浦さと子「記憶の贈与と共視の関係 コミュニティアーカイブと町家シネマの活動の事例から」龍谷政策学論集5(1)29-38, 2016年1月

(その他) 「日本におけるコミュニティラジオの今」コミュニティメディアについての議論 アトマジャヤ大学にて2016年9月 FM わいわい、コンバイン、インドネシアコミュニティラジオ連盟

「映像ジャーナリズムは誰のものか 福島から首相官邸前まで」小熊英二、白石草、山田健太司会・企画 松浦さと子、2016年6月、日本マスコミュニケーション学会、シンポジウム

的場 信敬

(論文) 「自治体主導型の再生可能エネルギー導入：京丹後市を事例に」『社会科学研究年報』第45号、pp. 247-254 (2016年) ※的場信敬・平岡俊一・豊田陽介の共著

「オーストリア・フォーアールベルク州のエネルギー政策を支える社会的基盤」『人間と環境』第42巻第1号、pp. 61-65 (2016年)

「再生可能エネルギーを地域社会の持続的発展に活用する：ヴィルポーツリード村の挑戦」『地域開発』vol. 606, pp. 63-68 (2015年)

村田 和代

(著書) Relational Practice in Meeting Discourse in New Zealand and Japan. Tokyo: Hituzi Shobo. 2015年2月.

「地域公共人材に求められる話し合い能力育成プログラムについて」村田和代(編)『共生の言語学：持続可能な社会をめざして』ひつじ書房. pp. 93-113. 2015年3月.

「市民の日本語と『話し合い』」村田和代・松本功・深尾昌峰・三上直之・重信幸彦(著)『市民の日本語へ：対話のためのコミュニケーションモデルを作る』ひつじ書房. pp. 33-61. 2015年3月.

『最新 英語学・言語学用語辞典』中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄(監修) 開拓社. 執筆者として参加. 2015年11月.

「まちづくりの話し合いを支える雑談」村田和代・井出里咲子(編)『雑談の美学一言語研究からの再発見一』ひつじ書房. pp. 51-70. 2016年2月.

(その他) (文部科学省検定高等学校教科書) 編集委員, BIG DIPPER English Communication. 数研出版.

執筆者紹介（掲載順）

中村 剛治郎（本学政策学部教授）

深尾 昌峰（本学政策学部准教授）

清水 万由子（本学政策学部准教授）

沼田 壮人（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員）

川勝 健志（京都府立大学公共政策学部准教授）

久保 友美（龍谷大学地域協働総合センター博士研究員）

村田 和代（本学政策学部教授）

榎並 ゆかり（龍谷大学地域協働総合センター リサーチアシスタント）

上野 敏寛（龍谷大学大学院政策学研究科博士後期課程生）

石原 凌河（本学政策学部講師）

矢作 弘（本学政策学部教授）

的場 信敬（本学政策学部准教授）

2016年度龍谷大学政策学会評議員および役員

青山 公三	白須 正
阿部 大輔	只友 景士
井上 芳恵 (編集委員)	谷垣 岳人
今里佳奈子 (庶務・会計委員)	土山希美枝
石田 徹 (会長)	中村剛治郎
石原 凌河	中森 孝文
大田 直史	深尾 昌峰
大石 尚子	松浦さと子
碓井 智子 (庶務・会計委員)	
岡本 健資	的場 信敬
奥野 恒久 (会計監査委員)	村田 和代
北川 秀樹	村田健三郎
金 紅実 (編集委員)	矢作 弘 (副会長)
清水万由子	吉本 圭佑
白石 克孝	

龍谷政策学論集第6巻第1・2合併号

2017年3月14日 発行

発行者

龍谷大学政策学会
京都市伏見区深草塚本町67

代表 石田 徹

印刷所

株式会社 富山房インターナショナル
京都市南区吉祥院池田南町13

RYUKOKU JOURNAL OF POLICY SCIENCE

Vol.6, No.1・2 March 2017

Articles

- 1 **For the Development of the Intermediate System Theory:
An Essay on "A Critical History of Environmental
Pollution in Postwar Japan" by Dr. Ken'ichi Miyamoto
Awarded the Japan Academy Prize**
Kojiro NAKAMURA
- 29 **Local finance concepts and subsidies - Higashi Omi model**
Masataka FUKAO
- 39 **Valuation affected by interactions between people and Satoyama in a suburban area:
key findings of the survey of Nagaoka-kyo residents**
Mayuko SHIMIZU, Soto NUMATA, Takeshi KAWAKATSU
- 51 **Regional public human resource development through inter-university cooperation:
Current situation and problems of leading the Kyoto model "Certified Manager of Public Policy"**
Tomomi KUBO

Note

- 63 **Practical Educational Program in collaboration with local business enterprises**
Kazuyo MURATA, Yukari ENAMI, Toshihiro UENO
- 77 **The collaboration between researcher and elementary school teachers in the education for disaster reduction
aiming for horizontal development of school disaster reduction education:
As a case of the education for disaster reduction about "Cross Road" in Anan City, Tokushima Prefecture**
Ryoga ISHIHARA
- 91 **Current status and development of "OpenCourseWare; free of charge for higher education resources":
Possibility of local public human resource development by on-line lecture**
Tomomi KUBO

LORC Activity Reports

- 99 **Resilient City or Sustainable City?:
From the International Round-table of OECD**
Hiroshi YAHAGI
- 105 **The Kyoto Model:Exporting the Co-working Model
between Universities and Local Stakeholders**
Kazuyo MURATA, Hiroshi YAHAGI, Masataka FUKAO
- 111 **The Impact of the Big Society Agenda to the UK's Partnership Culture:
The Development of the Social Investment Market**
Nobutaka MATOBA

Published by

The Association of Policy Science, Ryukoku University

Kyoto, Japan